



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年8月14日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東  
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	883	1.5	144	△3.9	145	△3.7	103	18.4
27年3月期第1四半期	870	-	150	-	151	-	87	-

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 180百万円 (144.3%) 27年3月期第1四半期 73百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	13.91	13.86
27年3月期第1四半期	12.56	11.87

(注) 平成27年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第1四半期	2,630	1,881	70.7	249.7
27年3月期	2,727	1,850	67.0	245.5

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 1,859百万円 27年3月期 1,827百万円

配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	-	0.00	-	20.00	20.00
28年3月期	-	-	-	-	-
28年3月期(予想)	-	0.00	-	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通期	4,000	7.8	625	13.0	625	3.3	395	10.0	53.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※当社は、予算編成を通期ベースで行っており、業績の進捗管理およびその評価は通期でのみ実施しているため、第2四半期(累計)期間における業績予想については、開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）無  
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期1Q	7,449,200株	27年3月期	7,445,200株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	86株	27年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期1Q	7,451,092株	27年3月期1Q	6,967,114株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、企業収益に改善傾向が見られ、それに伴い雇用情勢や所得環境が好転し、個人消費にも持ち直しの兆しが見られるなど、緩やかな回復基調が続いております。先行きについても、各種政策の効果による回復が続くことが期待されておりますが、中国経済をはじめとした海外景気の下振れや、原油価格の動向など景気を下押しする要因も依然として残っており、なお不透明な状況にあります。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の普及と利用の定着によるインターネットのモバイル化が進んでおり、今後も安定的な成長と拡大が期待されております。

平成27年3月末における携帯電話端末全体の契約数は1億2,651万件（前年同期比3.7%増）に達しており、増加のペースは緩やかになっております。その一方で、スマートフォンの契約数は、6,850万件（前年同期比19.5%増）と大きく増加し、全体の54.1%を占めるに至るなど、より一層の普及が進んでおり、市場はなお拡大を続けております（出所：MM総研）。

音楽やアーティスト関連の市場動向といたしましては、平成27年上半年（1月から6月まで）における音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産数量は111,822千枚（前年同期比1.1%減）、生産金額では129,408百万円（前年同期比0.5%増）と需要は底堅く（出所：一般社団法人日本レコード協会）、コンサート市場につきましては、平成26年の市場規模が274,944百万円（前年同期比18.6%増）と、拡大傾向にあります（出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。

このような外部環境の中、当社は、アーティストやタレント、キャラクターまでの様々なコンテンツを幅広く取り扱い、それらをファンクラブサイトやしゃべってキャラ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツの配信から、音楽映像商品、グッズ、アパレル商品等を取り扱うeコマースに至るまで複合的に展開し、サイトや事業セグメント間でのシナジー効果を発揮させることによって、収益の拡大と多様化を進めてまいりました。

事業の基盤となる有料会員につきましては、今後の流行が予想されるコンテンツのいち早い発掘と獲得を継続し、スマートフォン向けの新規サイトの開設や配信を行い、新規会員の確保に努めてまいりました。加えて、よりスマートフォンに適したサイト展開とコンテンツの高付加価値化によって、会員単価の上昇にも取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は883百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は144百万円（前年同期比3.9%減）、経常利益は145百万円（前年同期比3.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は103百万円（前年同期比18.4%増）となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、事業の基盤となる有料会員の増加を図るべく、引き続きアーティストやタレントの新規ファンクラブサイトの開設に注力してまいりました。

また、アニメやキャラクターの獲得とコンテンツ制作を行い、しゃべってコンシェルなどの自社の運営するスマートフォン向けコンテンツサービスや、「スゴ得コンテンツ」、「スマートパス」や「App Pass」といったキャリアの提供するスマートフォン向け月額使い放題サービスへそれらを投入することによって、収益の拡大にも努めてまいりました。

この他、会員向けのコンサートチケットの先行予約や、スマートフォン向けアプリの配信といった施策も展開してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は792百万円(前年同期比8.8%増)、セグメント利益は210百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、アーティスト及びタレント等の有料ファンクラブサイトにおいて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施し、会員の維持、拡大を推進してまいりました。また、アーティストやタレントのオフィシャルサイトの受託制作など、他の事業セグメントも含め、将来の新たな収益の獲得と拡大に繋がることを見据えた事業展開を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は52百万円(前年同期比2.7%減)、セグメント利益は8百万円(前年同期比109.8%増)となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と関連するアーティストグッズを事業の中核に据え、当社がファンクラブサイトを運営するアーティスト等の商品の直販と、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理の両面から、事業を展開してまいりました。サイト限定やオリジナル商品の取り扱い、購入特典の付与、コンサートチケットの予約抽選といった施策によって、その利用促進を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は34百万円(前年同期比61.1%減)、セグメント損失は0.7百万円(前年同期は31百万円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は2,630百万円(前連結会計年度末比3.6%減)となりました。

流動資産は1,546百万円(同9.9%減)となりました。おもな内訳は現金及び預金565百万円(同19.4%減)、売掛金602百万円(同8.1%減)、商品184百万円(同0.2%減)となっております。

固定資産は1,083百万円(同7.2%増)となりました。主な内訳は建物95百万円(同7.4%減)、投資有価証券521百万円(同27.6%増)となっております。

(負債の部)

流動負債は741百万円(同14.8%減)となりました。主な内訳は買掛金425百万円(同1.4%減)であります。

固定負債は7百万円(同4.2%増)となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産の合計は1,881百万円(同1.7%増)となりました。主な内訳は資本金243百万円(同0.2%増)、資本剰余金269百万円(同0.2%)、利益剰余金1,399百万円(同3.1%減)であります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、各種政策の効果により回復が続くことが期待される一方で、中国をはじめとした海外景気の下振れや、原油価格の動向など、先行きには不透明な見方も残っております。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの普及が一巡し、それに伴ってコンテンツサービスもフィーチャーフォン向けからスマートフォン向けが中心となるなど、市場は大きな転換点にあり、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化することが見込まれております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを中心とした公式サイト開設と、それに伴う新規有料会員の獲得を推進しており、会員割合については、スマートフォンがフィーチャーフォンを大きく上回っております。

しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場はいまだ黎明期にあり、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れは早く、それらを的確に予測することは困難であります。

加えて、フィーチャーフォン向けコンテンツ市場については、規模の縮小が継続しており、同業他社においても会員数は減少傾向にあります。

当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を進めていく方針であります。携帯コンテンツ配信事業の業績予想は、スマートフォン市場の動向を最大限に加味し、保守的なものとしております。また、ファンクラブサイトにつきましては、その開設時期はアーティストや事務所等の意向も反映され決定されます。そのため、予算策定時点において開設時期が決定していないファンクラブサイトについては保守的な見通しを策定しており、新規ファンクラブサイトの開設が決定し次第、業績予想は適宜見直しをしていく方針です。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

以上により、今期（平成28年3月期）の見通しについては、売上高4,000百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益625百万円（前年同期比13.0%増）、経常利益625百万円（前年同期比3.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益395百万円（前年同期比10.0%増）を見込んでおります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）、連結会計基準第44-5項（4）及び事業分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

#### 4. 四半期連結財務諸表

##### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	702,387	565,789
売掛金	655,842	602,754
商品	185,001	184,617
その他	175,348	195,362
貸倒引当金	△2,080	△1,853
流動資産合計	1,716,500	1,546,670
固定資産		
有形固定資産	154,516	151,345
無形固定資産		
のれん	56,239	49,214
その他	14,674	11,495
無形固定資産合計	70,914	60,710
投資その他の資産		
投資有価証券	408,636	521,561
その他	412,281	384,821
貸倒引当金	△35,358	△35,000
投資その他の資産合計	785,558	871,381
固定資産合計	1,010,989	1,083,437
資産合計	2,727,490	2,630,108
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	431,086	425,146
未払法人税等	141,481	34,800
賞与引当金	39,368	12,994
役員賞与引当金	30,000	7,500
資産除去債務	12,008	12,288
その他	215,572	248,296
流動負債合計	869,516	741,026
固定負債		
その他	7,300	7,609
固定負債合計	7,300	7,609
負債合計	876,816	748,636
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	243,167	243,617
資本剰余金	269,434	269,884
利益剰余金	1,444,512	1,399,225
自己株式	△48	△48
株主資本合計	1,957,066	1,912,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△129,199	△52,753
その他の包括利益累計額合計	△129,199	△52,753
新株予約権	22,806	21,546
純資産合計	1,850,673	1,881,471
負債純資産合計	2,727,490	2,630,108

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	870,352	883,413
売上原価	535,567	507,176
売上総利益	334,785	376,237
販売費及び一般管理費	184,074	231,361
営業利益	150,711	144,875
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	—	357
受取賃貸料	—	326
雑収入	435	42
営業外収益合計	435	727
経常利益	151,146	145,602
特別利益		
新株予約権戻入益	—	1,260
関係会社株式売却益	—	8,024
特別利益	—	9,284
税金等調整前四半期純利益	151,146	154,887
法人税、住民税及び事業税	57,111	33,586
法人税等調整額	6,535	17,685
法人税等合計	63,646	51,272
四半期純利益	87,500	103,614
親会社株主に帰属する四半期純利益	87,500	103,614



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
四半期純利益	87,500	103,614
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13,792	76,445
その他の包括利益合計	△13,792	76,445
四半期包括利益	73,707	180,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	73,707	180,060

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	728,240	54,340	87,771	870,352	-	870,352
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	728,240	54,340	87,771	870,352	-	870,352
セグメント利益 又は損失(△)	193,352	4,285	31,899	229,537	△78,826	150,711

(注) 1. セグメント利益の調整額△78,826千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 当第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますが、当第1四半期連結会計期間の末日をみなし取得日としているため、連結子会社の売上高及び利益又は損失の金額は四半期連結損益計算書に含めておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間より株式会社ゆるキャラを連結子会社といたしました。なお、当該事象におけるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において4,292千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	携帯 コンテンツ 配信事業	P C コンテン ツ 配信事業	eコマース 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	792,278	52,880	34,178	879,336	4,076	883,413	—	883,413
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	4,038	4,038	△4,038	—
計	792,278	52,880	34,178	879,336	8,114	887,451	△4,038	883,413
セグメント利益 又は損失 (△)	210,265	8,988	△735	218,519	△2,316	216,202	△71,327	144,875

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゆるキャラ®関連の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△71,327千円には、セグメント間取引消去9,074千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△80,401千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。